

三菱商事ディレクトフォース

三菱商事ビルの中に入ったとき、私は日本屈指の大企業という重々しい雰囲気を感じた。しかし、エレベーターを降りてから社員の方にお会いしたとき、とても驚いた。その雰囲気とは正反対のように、明るい声、そして明るい笑顔で私たちに話しかけてくださった。両親には、「三菱商事の本社ビルに入るなんて、千載一遇のチャンスだよ。」と言われ、二高の先生は、「社員がたくさんいるから、本社勤め出来る人はごくわずかだよ。本社に入ったことがないまま、退職する人が大半だよ。」とおっしゃっていた。社員の方と接したとき、こういう方が本場で働いているのかとその言葉の意味を知った気がした。

三菱商事の企業説明で、最も印象に残ったのは、三菱商事の会社規模である。三菱商事の連結対象会社も含めると、90か国に626社あり、全部で68383人が働いているそうだ。会社規模を分かりやすく表現するフレーズとして「ラーメンから飛行機まで」というものがあるそうだ。私は、三菱商事が持つグローバルネットワークの大きさや、私たちの身近なものからそうでないものまで三菱商事が関わっているという会社規模の大きさに驚いた。また、三菱商事は事業を通じて社会貢献をしているだけでなく、地球環境の維持にも貢献しているということで、私は社会貢献と地球環境の維持への貢献の両立に感銘を受けた。

何人かの社員の方々の仕事内容の説明の中で、金属資源ビジネスをしている社員の方の説明が最も印象に残った。金属資源ビジネスとは、日本のエネルギー自給率が5%であるため、海外への投資を通じて日本に安定的な資源調達を行うというものである。その社員の方はアルミニウムの担当で、作るのに大量の電力を消費するアルミニウムは、もともと資源に乏しい日本での生産は困難なため、全量を海外から輸入している。そこで、三菱商事は海外での日本企業最大の権益の確保に力を入れているそうだ。その社員の方は以前、モザンビークのアルミニウム工場に派遣され、そこで仕事をしていたそうだ。途上国でビジネスを行う上で、地域との共生は不可欠なため、学校を建てたり、飲み水を確保するために井戸を作ったりなど、地域貢献を積極的にすることはとても大切らしい。また、海外での生活は、知らなかったことばかりで新たな発見と興奮の連続で、個人としてとても成長できたそうだ。その社員の方がモザンビークで得た教訓は、やるかやらないか迷ったら挑戦すべきということと、自分と「違う」ことを受け入れるということだそうだ。私は今まで、海外での仕事にはほとんど興味が無かったが、この説明を聞いて、海外での仕事はとてもやりがいがあり、周りの違う価値観を持つ人々との仕事の中で、個人としてとても成長できるということが分かり、将来の進路として海外での仕事も視野に入れたいと思う。

三菱商事の社員の方々とのディスカッションでは、「日本と外国との文化の違い」と「学生時代に培うチカラ」について話し合った。「日本と外国との文化の違い」について、改めて詳しく分かったことは、文化の違いにはそれぞれの国の伝統が大きく関わっているということだ。例えば、食事の際、日本では皿（茶碗）を持って食べるのがマナーとされている。それは、昔日本人がお膳の前に正座をして食事をし、皿（茶碗）を持たなければ非常に悪い姿勢になってしまうという経緯があったからだ。一方で、外国（ここでは欧米の話を取り上げる）では皿を持って食べるのはタブーとされている。それは、彼らが昔からフォークとナイフを両手に持って食事をしていることや、テーブルに置かれている皿がテーブルの一部と見なされているということが理由である。私は、それぞれの国々で昔から営まれてきた生活の中で最適なやり方が文化となっているので、それを自国と異なるからといって悪く言ったりはせず、尊重をすべきだと思う。また、宗教の面では、日本は特定の宗教に帰依するのではなく、複数の宗教に浅く広く接しているように見える。一方で、海外では、特定の宗教に帰依する国が多く、

子供のときに親や学校から教育され、それが代々受け継がれている。私たち日本人が外国人と接するときには、宗教観の違いからトラブルが発生しないように、その人の宗教観を事前に理解しておくことが重要であるということを知った。「学生時代に培うチカラ」について、そのチカラの1つとして、他人と接するときには相手の考えていることを慮り、それに出来るだけ合わせるチカラだと思った。もちろん、相手の考えにどうしても納得がいかないという場面に出くわすことはよくあるかもしれないが、あえて下に回ってみると、相手がなぜそう考えるのかが分かったり、自分にも非があるということに気付かされたりすることもある。このチカラは、先述のように、外国人と接するときにも使えるものだと思う。私が社会人になったときに、この二つのディスカッションで学んだことを身につけられるよう意識して学生生活を送りたいと思う。

企業大学訪問（三菱化学エンジニアリング株式会社）

私たちは、企業大学訪問で三菱化学エンジニアリング株式会社を訪れた。なぜこの会社を選んだのかというと、班の全員がエンジニアや工学系の職業を希望しており、また、三菱化学エンジニアリング株式会社のホームページを見て、安全第一の姿勢や化学技術を用いたの排ガスの処理・回収など、環境保全に大きく関わっているということなどに感銘を受けたためである。

三菱化学エンジニアリング株式会社の企業説明で、最も印象に残ったのは2つある。1つ目は、安全第一を推し進めるために、現場では毎朝の朝礼のときに「ご安全に！」と言うということである。限られた工期と作業環境の中で社員の安全を確保し無事に工事を完成させ、客に引き渡さなければならないので、私はそういった習慣が安全への意識の向上に繋がると思う。2つ目は、三菱化学エンジニアリング株式会社は会社を挙げて KAITEKI の実現を目指しているということだ。KAITEKI とは、人にとっての心地よさに加えて、社会にとっての快適、地球にとっての快適を合わせ持ったもので、真に持続可能な状態を意味しているようだ。その KAITEKI のための例として、炭素繊維が挙げられる。炭素繊維は、アルミニウムより軽く、鉄の10倍強く、また、製造時の二酸化炭素の排出量が少ないので、人、社会、地球にとってとても KAITEKI なものである。そういったものを手掛ける三菱化学エンジニアリング株式会社を私は、とても技術力があり、かつ環境保全にも手抜きがない素晴らしい企業だと思った。

考えてきた質問への答えの中で、最も印象に残ったのは、「この仕事において誇りに思うことは何ですか。」という質問に対する答えだ。それは、自分のアイデアが特許化されたとき、いつも新鮮味がある仕事ができる、扱う金額が大きい、仕事に関わる人数が多い、スケールの大きいものをつくることなどだった。私は、自分の仕事が誇りに思えたり、やりがいを感じられたりする機会がこんなにも多いとは思わなかった。私が社会人になったら、誇りややりがいを感じられるように努力し、その達成感を味わいたい。

まとめ

この二つの企業の訪問はとても貴重なものとなった。実際働いている社員の方々との対談や講話を通して、将来自分が進みたいと思っている進路だけでなく、それ以外の進路にも興味が湧いた。この体験を将来の自分の進路に活かせられるように、これからも自分の進路について考えるようにしたい。